

---

# 小説概論～活報録2012～

聖騎士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小説概論〜活報録2012〜

### 【Nコード】

N1061BA

### 【作者名】

聖騎士

### 【あらすじ】

今まで自分の書いた活動報告の中から、小説について述べたものを集めて掲載しています。

これはあくまでも僕個人の考え方なので絶対的ではないし、他の方にその考え方を押しつけるものでもありません。

もちろん違う考えの方を否定するわけでもありません。

あくまでも参考程度に考えていただければ幸いです。

これは2012年版です。2011年版とは違って、2010年版と同じ形式で順次更新していきます。読みづらいかと思いますが、

ご了承ください m ( — ) m

## 1 新年の抱負&活動方針

タイトル 新年のご挨拶

日付 2012年 01月 01日 (日) 12時 50分 5  
8秒

【今年一発目はこの曲でスタート！ 【初音ミク】鎖の少女【オリ  
ジナル】の聖騎士の活動報告】

恋の相手は魔王様！？ 【第45話】公開、【第50話】予約投稿  
(1/21, 12:00) 第二章完結

小説概論〜活報録2011〜 【2011年の総括】更新《完結》

あけましておめでとございます。

旧年中はたいへんお世話になりました。

今年もよろしくお願い致しますm(\_\_\_\_\_)m

この曲は以前も紹介したことがあるのですが、今の僕の気持ちに合  
ってるので再度紹介させていただきました。

「これからがんばるぞ」という前向きな気持ちにさせてくれるんで  
すよね^^

昨夜はなろうとツイッターで年越しを迎えました。

0:00になった瞬間に怒濤のようにあけおめツイートがなだれ込み、なろうの新着活報欄もあけおめ活報で一瞬のうちに埋め尽くされてしまいました( ^ | ^ ; )

ツイッターは程なくサーバがダウンしてしまっただけで、なろうの方もほとんど更新されるあけおめ活報にコメントが追いつかず途中で諦めましたw

いやあ年越しの瞬間って、何度経験しても興奮しますねw

今年は龍年。

災害や不況をドラゴンの力で吹き飛ばしてほしいですね。

「最“強”ドラゴンの物語」にしてほしいですw

さて新年の抱負を述べてみたいと思います。

今年の目標は「現状維持」ですw

去年以上にリア重が予想されるため、とにかく今まで通り活動をするだけでたいへんな労力を必要とするんじゃないかと。

現状維持!!今までよりがんばった

つてなるかなと思います。

具体的な活動としては、

「Xanadu」聖騎士物語」 平日2,000〜3,000  
字更新

「恋の相手は魔王様!？」 土日祝日2,000〜3,000字更新

「エンジェルティアの最強執事」 気が向いたら2,000〜2,  
500字更新

です^^

たくさんの方々に読んでいただいた「小説概論」活報録2011」  
は、昨日完結させました。

今年もまた「小説概論」活報録2012」として記録し続けてい  
ければと思っています。

ただ形式は2010年版と同じに戻します。

2011年版の形式だと、「この小説はヶ月更新されていません」  
のお札がついてしまうんです。

割り込み投稿だと更新したことにならないようです。

お札が付けられることは嫌なので、2010年版と同じ形式にしま  
す。

別に毎回新着欄に載らなくても構わないのですが、お札が付くのは嫌なんです。

先日2011年版に付けられててショックを受けました(・ー・)

なので少し読みづらくなってしまっていますが、読んでくださる方が万一いらっしゃればよろしくご了承のほどお願いいたしますm  
(ーー)m

お気に入りユーザ登録の基準については今まで通りです。

コメントもしくは感想を書いてくださった逆お気に入りユーザさんに対して、相互登録いたします。

クレクレ防止のためです。

また活動縮小は今だ続いていますので、ノクタの「Sの悲劇」「小説概論」活報録2010」に関しては、当該読者様からOKが出次第削除いたします。

活動報告に関しては今まで通りの基準で書きます。

つまり「活動したら報告する」というスタンスです。

活動しなければならうインしても活報は書きません。

また書ける時にはなるべく今まで通りの内容で記事を書かせていただきますが、リア重の時には活動報告のみの内容になると思います。

「余談」は抜きということですね。

それでも同じタイトルだと過去の記事にコメントしていただいた時  
区別が付きにくいので、毎回タイトルは変えたいと思います（^―  
^ ; ）

バトンは基本的にお断りしています。

なろうは小説投稿サイトであり、活報は「活動」を「報告」する場  
だと思っていますからです。

他の方がバトンをなさることに關しては否定しません^^

楽しく拝見していますので

自分はしませんというだけです。

企画はできる限り参加したいと思っていますが、^切を守れないとか  
結果的に参加できなくなってしまうたという結果を避けるために、  
参加表明は慎重に検討したいと思っています。

基本的には何にでも参加したい派なんです（^―^ ; ）

適当にやつつけ仕事で書いた作品で参加することなどになったら、  
主催者さんや他の参加者の方々に失礼ですからね。



相互さんの小説のコンプリートを目指すのは継続していきます。

まあかなりたいへんですが、「目指す」のは構わないでしょうw

できる限り相互さんの新作短編は拝読致します。

連載作品は順番待ちでしょうね（＾―＾；）

それでも強く興味を惹かれた作品には飛びつきますw

僕の好みによりますがw

感想をいただいた方の作品には優先的に読みにいくようにしています。

お返しの意味も込めて。

その方のお気に入り小説一覧に自分の作品を見つけたりしたら、嬉しくなってガンガン読んじゃいますねww

現金なヤツですみませんw

基本的に読了したら感想は書きます。

どんな作品にでも。

気に入れば評価ポイントを入れたりレビューさせていただいたりもしています。

さらに僕が良作だと判断した場合は、作者さんに了承をいただいた上で活報で「良作紹介」として紹介させていただいてます。

基準はあくまでも僕の個人的な好みなので、「僕の個人的な好みの良作」という意味です^^

ガイドラインの強化に従い、活報コメント欄での“チャットのような会話”はご遠慮ください。

また活報内に書く僕の考えや意見は、あくまでも僕個人の価値観に基づいて書いています。

絶対に正しいものではありません。

なので“悪意ある”反論や批判的意見はご遠慮ください。

そういった“悪意ある”反論や批判的意見の方と議論するつもりはありません。

時間とエネルギーの無駄ですから。

そういう“悪意ある方”や明らかな荒らしに対しては、「完全にスルー 削除 ブロック 通報」のコンボ技で対処致しますw

活報の活用方法に関しては、リニユール以降僕なりに考えてきました。

いまだ完全にこれが正しい使い方だと限定することはできませんが、「活動を報告する」場だということは守っていききたいと思っています。

そしてみんな仲良く、時には創作論をぶつけ合ってお互い高めていけるような場にしていければなあなんて思っています。

まずは「黒姫杯」参加。

続いて「童話祭2012」をどうするか。

「空想科学祭」にも参加したいし、今年も「夏ホラー」があるのなら考えたい。

沖荒さんの「月刊ワード小説賞」は4月までは参加作品を申請しています。

9月に行われるアルファポリスさんのファンタジー小説大賞には「恋魔」で参加できればいいなって思っています^^

問題は2月の恋愛小説大賞ですね（-\_-）

「エンジェルティア」で参加できるかどうか。

今は恋愛というよりも完全にファンタジー色の方が強いので。

今後の展開が恋愛まで追いつけば、参加も考えてみようかなと。

別サイトでのミステリ小説大賞の参加も検討中です。

電子書籍化していただけるし、競争率も低そうなのでちょっと前向きに考えています。

もし詳細を知りたい方はメッセージにてご連絡ください^^

今年も4月からまた少し環境が変わります。

昨年は何とか乗り越えましたが、今年はどうなるか(・\_・)

とにかく一日一日をしっかりと活動していきたいなって思っています。

こんな未熟者なクソガキですが、今年もよろしくお願いいたします  
m ( \_ \_ ) m

## 2 映画鑑賞日記『星を追う子ども』

タイトル 映画鑑賞日記『星を追う子ども』

日付 2012年 01月 02日 (月) 15時 09分 4  
1秒

【朝から頭痛が酷くて、吐き気までしてきた聖騎士の活動報告】

Xanadu 第四章 第五節 2,278字更新

恋の相手は魔王様！？ 【閑話4】 予約投稿(1/22, 12:00)

もしかしたら風邪かもしれない(・\_・)

薬でも飲んで休みたいと思います。

この映画は「秒速5センチメートル」で有名な新海 誠さんの作品です。

昨年公開されたようなのですが、最近DVDでのレンタルが始まったようです。

特に事前情報もなく手に取って裏面のあらすじを読み、興味を持ったので借りてみました。

本当は去年の末に観たのですが、年末年始を挟んでしまったので今頃記事を書くことになってしまいました（＾|＾；）

あらすじです。

ある日、父の形見の鉱石ラジオから聴こえてきた不思議な唄。

その唄を忘れられない少女アスナは、地下世界アガルタから来たという少年シュンに出会う。

2人は心を通わせるも、少年は突然姿を消してしまう。

「もう一度あの人に会いたい」そう願うアスナの前にシュンと瓜二つの少年シンと、妻との再会を切望しアガルタを探す教師モリサキが現れる。

そこに開かれるアガルタへの扉。

3人はそれぞれの想いを胸に、伝説の地へ旅に出る

（公式サイトより）

といった内容です。

まず絵柄が宮崎アニメそのまんまという感じです。

僕はアニメ業界には詳しくないので、この監督さんとスタジオジブリとの関係とかわかりません。

でもかなり似通っています。

意識して描かれたのでしょうかね。

別にパクリとかそういうつもりはありませんが、純粹に「似てるなあ、ってか同じじゃん」って思いました。

絵柄だけでなく世界観もほとんど同じって印象を受けました。

宮崎作品で言えば「天空の城ラピュタ」や「千と千尋の神隠し」「ハウルの動く城」でしょうか。

現実世界は「トトロ」ですね。

ストーリーは壮大で、全体的に二部構成になっています。

現代世界と地下世界アガルタです。

アガルタへ行ってから、もう完全にファンタジーって感じですよ。

小学生のアスナには、なかなか辛い展開が続きます。

それでも一生懸命前に進む姿には胸打たれますね^^

ありきたりではありますが、この映画のテーマは「成長」でしょうね。

出会いと別れ、旅と冒険を通して自分を見つめ直し生きる力を得ていく。

対象年齢の関係か、あまり血生臭い描写はありません。

それでもハラハラドキドキの演出は見事ですな^^

ただ作中解明されない謎が残ってしまったのは残念です。

一番疑問に思っただのはシユンの死んだ理由ですね。

現実世界に出ると長くは生きられないという説明はありましたが、なぜそこまでして現実世界に出てきたのか。

アスナに会いたかったのならば、なぜそこまでしてアスナに会おうと思ったのか。

アスナがアガルタを目指す動機ともなる重要な部分が曖昧に感じてしまったので、そこはマイナスでした。

また、全体的にテーマがぼやけてしまった気がします。

モリサキがメインなのか、アスナの心がメインなのか。

滅び行く地下世界アガルタの悲しさがメインなのか人間の欲深さを表現したいのか。

「よーわからん」というのが正直な印象です。

それでも最後まで飽きずに楽しめたのはよかった^^

少なくとも「観て損した」とはならない作品でした。

それは確実に言えます。

観終わった後に清々しい気持ちになれたのは良かったですね。



面白いテレビ番組のないお正月休みには、ぴったりの作品かもしれません。

昨夜はニコニコ動画の生放送で、往年の名作アニメ「トップをねらえ」「トップをねらえ2」そしてそれぞれの劇場版を延々8時間以上観てしまいましたww

もちろん時々抜けながらでしたが、一気に観たのでかなり疲れました(´・`・´)

それでもすごく充実感を覚えましたね。

やっぱり名作は色褪せないですね。

「2」は微妙でしたが(´^`^´)

### 3 間違いとは言えないけどあんまり美しくないからできれば避けたい言葉

タイトル 間違いとは言えないけどあんまり美しくないからできれば避けたい言葉

日付 2012年 01月 04日 (水) 11時 18分 5  
6秒

【謎の感動】 【GUMI】消火器がダンディーで気が利く場合【オ  
リジナル曲】 の聖騎士の活動報告】

Xanadu 第四章 第五節 2,407字更新

小説概論〜活報録2012〜 【映画鑑賞日記】更新

昨夜は夜9時過ぎにものすごく気持ち悪くなって、すぐに寝てしま  
いました(ーー)

10時間くらい寝てようやく落ち着きました。

今朝は7時くらいから「Xanadu」書いてました。

ご心配いただいた方々、ありがとうございましたm(ー)ー(ー)m

この曲は昨年の大晦日にアップされた曲です。

有名な「家の裏でマンボウが死んでるP」の曲です^^

僕はこの方の曲では断然「クワガタにチョップしたらタイムスリップした」が好きなんです、この曲もストーリーがいいですねw

シユールな絵もいいし。

裏マンボウPさんのお姉さんが描かれたってことなんです、いつもお上手だなあって思っています。

そして笑える曲なのに、なぜか感動させられてしまうww

ほんと不思議な曲です^^

昨年の年末から何人かの方に下読みを頼まれて、けっこう読ませていただいています。

そんな中でいくつか気になったことがあったんですが、支障のない程度に考察してみたいと思います。

今回は「厳密には間違いとは言えないけど、美しくないからできれば避けたい重複表現もしくは重複表現っぽい言葉」です。

長いww

ちなみに「重複」は、正しくは「ちょうふく」と読みます。

「じゅうふく」ではありませんのでお間違えのないよう。

もつとも、今ではどちらでもいいとなってきたようです。

## 1、「違和感を感じる」

これよく目にします。他にも「疎外感を感じる」とかも書いてしまう時があります。

厳密に言えば文法的に間違いとは言えないようです。

でも何か美しくない。

「感」が重なっているからでしょうね。

「感」の時点で「感じる」の意味が入っていますから、「違和感を覚える」って書けばなんら問題はない。

「覚える」には、「記憶する」「学習して身に着ける」以外にも「感じる」という意味があります。

「美しさ」にも個人差はあるでしょうが、僕はこの書き方は避けています。

## 2、「後で後悔する」

これ有名なボカロ曲「ワールド・イズ・マイン」に出てきて、めっちゃがっかりした覚えがあります。

アメリカのCMで流れた国際的なボカロ曲なのに。

歌詞に明らかな重複表現が、つまり“文法間違い”が入ってるんですね。

これは明らかな重複表現です。

正しくは「後で悔やむ」とか単に「後悔する」でいいんですね。

### 3、「返事を返す」

これは僕もよくやってしまいます><

読み返した時だいたい気づいて直していますが。

これも厳密には間違いではないようです。

「返事」を名詞として捉えれば、「返す」という動詞には意味的にきちんとつながります。

でもなあ…

「返」が重なっている時点で、あまり美しくないなって思っています。

読んだ時に気づいても指摘したりはしませんが、自分では書かないように注意しています。

### 4、「血が出血する」

さすがにこれは間違いでしょうね。

見た時は仰け反ってしまいました。

「頭痛が痛い」とか「火事が燃えてる」「馬から落馬する」と同じですね。

これは指摘します。

他にも目に見えて重複表現ではなくても、結果的に重複表現になってしまう場合もあります。

例えば、

>

太郎は棚の扉を開けた。棚の中には太郎のアルバムがあった。太郎は棚の中からアルバムを取り出して、アルバムの表紙を開けてみた。

まず「棚」が二回続いているのでリズムが悪くなっていると思います。

「太郎」という動作の主体が何度も出てきて、これもなんとなくウザい。

「アルバム」もこの短い文章の中に三度も出てきてどうにも読みづらい。

僕が修正するとこんな感じですよ。

>> 太郎は棚の扉を開けた。中にはアルバムがあり、彼は取り出して表紙を開いてみた。

美しい文章、わかりやすい文章かどうかは別として少なくとも読みやすくはなったかと。

日本語は省略の言語ともいわれ、あきらかにわかる場合主語は省略できる。

この場合動作の主体が「太郎」であるのは明らかなので、いちいち「太郎は」と書かなくても読者には通じるんですね。

「アルバム」もそうです。

すでに「取り出した」のはわかっています。

読者の脳内には、太郎がアルバムを手に持っている姿は映ってるんですね。

だからあえて、「アルバムの表紙」などと書かなくても通用する。

「と言った」という表現も同じで、「」があれば「言った」のはわかる。

あえて「言った」ことを強調したければ別ですが、会話の流れをよくしたければ取り立てて書く必要もない。

例を挙げてみます。

> (修正前)

「そんなのどうだっていいでしょ！」

とマリアは言った。マリアは足音高く部屋を出て行った。

>> (修正後)

「そんなのどうだっていいでしょ！」

マリアは足音高く部屋を出て行った。

特に問題はなさそうです^^

こんな風に削れるところは極力削って、読みやすくリズムのある文章を心がけたいと常に自戒しています。

他の方の小説を読んで悪いところを指摘するのも大事ですが、こうして自分の勉強にするのもいいことだなあなんて思ってます。

他人の文章を読んで自分の文章の悪いところに気づくってこと、よくありますからね(^-^;) )

読み返す時、音読するのってすごくいいです。

小さな声でいいから、一度ぶつぶつ音読してみてはどうでしょう。

実際になさっている方はけっこう多いようです

きつとおかしなところに気づくと思います。

僕は聞かれた時、たいていそんな風に答えています。



#### 4 プロデビューを目指すアマチュア作家は、絶対にデビューできない

タイトル プロデビューを目指すアマチュア作家は、絶対にデビューできない

日付 2012年 01月 06日 (金) 11時 45分 20秒

【誰か小説化希望！>< 【オリジナル曲PV】WORLD・S  
END UMBRELLA【初音ミク】 な聖騎士の活動報告】

Xanadu 第四章 第五節 2,193字更新

小説概論〜活報録2012〜 【間違いとは言えないけどあんまり  
美しくないからできれば避けたい言葉】更新

この曲はかなり古い曲なのですが、時々無性に聴きたくなっています。

曲調は「マトリョシカ」「ワンダーランドと羊の歌」「パンダヒーロー」などのハチさんらしいのですが、ストーリー性がハンパないんです。

壮大なSFかファンタジー大作って感じです。

南方研究所さんの動画のクオリティも高い。

ほんと、マジで誰か小説化してほしいボカロ曲です。

いきなり攻撃的なタイトルですみません（^ー^；）

この言葉は、あるプロ作家さんの言葉です。

主旨はこうです。

【プロデビューを目標、言い換えればゴールにしているアマチュア作家はプロデビューはできない。万が一運良く一作出せたとしても、二作目以降はない。本当にプロデビューを目指すなら、デビューを目標とするのではなく『誰よりも面白い作品を書いてやる』という気概を持って創作に取り組むべき。】

ということですよ。

なるほどと思いました。

なるうでも、プロデビューを目指されている方は多く見受けられます。

みんな本当にがんばっていらっしやる。

仕事や勉強で疲れている体に鞭打って創作に打ち込んでいらっしやる姿には、本当に感動します。

できる限り応援したいと思います。

でもその目標を見誤らないでほしいなっています。

デビューはあくまで通過点。

その先を見据えないとプロにはなれない。

また、一作で満足しようと思ったら、一作も出せない。

まずはストイックに、自分の作品と向き合うのが大事かなって思います。

なろうはアクセス数やお気に入り小説数など、いわゆる「人気のバロメーター」がはっきりとしています。

でもそれはあくまでも他人の数字。

人気作のマネをしたって人気は出ない。

自分にしか書けない「面白い小説」は絶対にある。

参考にするのは構わないけれど、それはあくまでも参考。

他人の作品・作風です。

僕が積極的にマニュアル本などを読まないのは、そういうところにあります。

文章や展開・構成に関してもそうだし、世界観や設定・キャラ立てなどもそうです。

アドバイスをいただけるのはありがたいし、礼節と思いやりのある痛烈な批判もありがたい。

でもやっぱりそれらは「他人の主観」であり「他の人の価値観による面白さ」なんですね。

参考にはなりません。

しなきゃいけない。

でも自分の作風や面白さを追求することとは別問題だと思っています。

自分の、自分だけの面白い小説をとことん研究して追求する。

それが結局はプロデビューにつながるのかと。

何度も言いますが、僕の目標はプロデビューではありません。

でも「誰よりも面白い小説を書きたい」という点では同じです。

数字や流行に流されず、自分だけの最高に面白い小説を書けるようになりたいなって思います。

## 5 読書日記? 「タラ・ダンカン2 呪われた禁書 下」ソフィー・オドゥロ

タイトル 読書日記「タラ・ダンカン2 呪われた禁書 下」ソ  
フィー・オドゥワン＝マニコニアン：著  
日付 2012年 01月 08日（日） 13時 36分 5  
9秒

【独特の世界観 【オリジナル曲PV】結ンデ開イテ羅刹ト骸【初  
音ミク】を聴きながらテンションを上げている聖騎士の活動報告】

恋の相手は魔王様!? 【第47話】公開、

12:00)  
【閑話5】予約投稿(1/28、

この曲は「マトリョシカ」「パンダヒーロー」で有名なハチさんの  
曲です。

この方の曲ほんと好きなんです。

ツイッターでもフォローさせていただいてます。

歌詞が難解でなかなか奥深いです。

また、この曲はその世界観や曲調も独特で味があります。

怖い雰囲気もありますね。

とにかく、既存のボカロ曲とは一風変わったイメージです。

勇気のある方はどうぞw

「タラ・ダンカン」の2話目の下です。

かなり世界観が壮大になってきました。

1巻から引き続いた伏線も徐々に回収されつつあり、設定の緻密さがよくわかります。

文章は相変わらず英語の和訳文みたいな散文ですがw

行動や心理の流れが唐突なんです。

ぶった切りっていうか。

とりあえずあらすじです。

魔術を使うと“血の約束”のために祖母イザベラ・ダンカンは死んでしまう。

その契約を解除しようと、タラは煉獄の裁判官に会いに行く。ところがそんな中、自らの中にある魔術の力をなくすために“黒バラの汁”を飲んだ小人のファフニールは、“魂を荒らす者”に取り憑かれてしまう。

“魂を荒らす者”とは、強力な負の魔法を持った存在で、このまま

なら別世界は滅亡してしまう。

“魂を荒らす者”に対抗できるのは、“白い魂”だけ。  
タラとその仲間たちは、“白い魂”を探す。

その最中、なんとバンパイアのドラゴツシュ先生が殺人を犯した現場に遭遇してしまう。

別世界のバンパイアは、人間の血を飲むと呪われてしまうのだ。  
そして人間の血を吸うことは、法律で厳しく制限されている。

囚われの身となったドラゴツシュ先生は、夜牢屋を抜け出してタラの部屋へ現れる。

なんとタラの命を狙う者がいるから気をつけろという。

そして翌朝、タラは自室で死体となって発見された

途中までですが、ネタバレを防ぐために書くこんな感じになります。

この巻では、ファンタジックな展開以上に人間ドラマに重点が置かれています。

事故死した少年が、残された両親のことをカルに頼むシーン。

頑固で強気だったノームの王様が愛する婚約者のために奮闘し、その助ける手段を叱られてオドオド涙目になってしまうシーン。

意地悪で冷血に見えたバンパイアが、愛する人のために自らの命を投げ出そうとするシーン。

人間のタラとエルフロバンの恋。

そういった、ファンタジーなのに人間臭いドラマが全編に渡って繰り広げられている。

これはよかったですね。

文章がもつと情緒的なら泣けたのに（＾―＾；）

もちろん、魔法の戦いはお見事です。

敵であるサングラーヴ族の支配者マジスターとタラが手を組んで“魂を荒らす者”と戦うクライマックスシーンは、壮大な映画を観ているよう。

思わず手に汗握りました。

タラの命を狙う暗殺者の正体も、ラスト近くで判明します。

意外な人物で、今まで張られていた細かい伏線が全部一気に回収されます。

これは爽快でしたね。

ただ、その暗殺者がタラの命を狙う理由が非常に興味深い。

「仕方ないな」って思えてしまうんですね。

これも“人間ドラマ”の一つです。



タラはその膨大な魔力のため、金色のドラゴンに変身することができます。

でも中身は人間のままなので、「飛ぶ」ということがよくわからない。

簡単に言ってしまうえば、飛ぶのが下手なんですわ

仲間たちはタラの背中に乗って飛ぶことを、極端に嫌がります。

「マジスターに捕まった方がよっぽどいいよ！」というカルのセリフには噴きましたw

それでもなんとか飛ぶことはできるのですが、何よりも着地が下手。

着地というより「墜落」です。

着地するたび地面が抉れて、地形が変わってしまうんです。

この辺の小技も面白いですね。

ストーリーには全然関係ないのですがw

ファンタジックな世界観や緊迫した魔法戦。

若者同士の淡い恋愛話も織り交ぜながら、壮大なストーリーが少しずつ結実していく様はお見事ですな。

ただやはりヨーロッパのファンタジーらしく、細かい世界観の作り込みや設定は日本のファンタジーには一歩及びません。

精緻さでは「獣の奏者」の方が一枚上手ですね。

巧緻な美を追究した和食が「獣の奏者」ならば、豪快なステーキが「タラ・ダンカン」です。

それでも「ハリー・ポッター」よりは世界観は壮大な気がします。

手元にはこの巻までしかなく、続きはありません。

またどこかで見かけたら、ぜひ続きを読みたいと思います。

まだまだ図書室には読みたい本が山ほどあるのですが、次回からは購入した本に取りかかりたいと思います。

なろうで相互ユーザにしていたいている方の書籍もあるのですが、お金を払って読むからには思ったことを正直に書きます。

例え批判のみになってしまったとしても。

それが礼儀だと思っていますので。

まあそんなことにはならないと思いますが^^

最後にお知らせです。

「恋魔」のことなんですが、いつも読んでくださってありがとうございます  
m ( \_ ) ( \_ ) m

現在予約投稿では第二章【ヴァルキリー出陣】が終わり、閑話を書いているところです。

それでこの閑話なんです、閑話とはもともと「無駄話」という意味で本編には関係のない話のことです。

僕は「恋魔」に限らず、閑話はすべて「読まなくても本編に影響のない話」として書いてきました。

しかしどうしても書きたい閑話があり、しかもその内容が本編に深く関わりのあるお話なんです。

なので「恋魔」の閑話に関しては、本編同様に読んでいただければと思います。

「それじゃ『閑話』じゃねえじゃん！」というご批判は承知の上です。

理由は機会があれば述べますが、今はぜひ閑話も本編の一部として読んでいただきたいとお願い致しますm(\_\_\_\_)m

自分で決めたポリシーを曲げるのは心苦しいのですが、「書きたいお話を書く」というそれ以上に大切な僕のポリシーに基づくものです。

どうかご容赦くださいm(\_\_\_\_)m

これからもこの未熟者を、どうかよろしくお願い致しますm(\_\_\_\_)m

## 6・【自己流】読点の打ち方

タイトル 【自己流】読点の打ち方  
日付 2012年 01月 09日 (月) 12時 28分 3  
2秒

【視聴する勇気のある方はどうぞ！】オリジナル曲【リンネ】初  
音ミク】の聖騎士の活動報告】

恋の相手は魔王様！？ 【第48話】公開

【閑話6】 予約投稿（1 / 28 ,  
12 : 00）

【第51話】 予約投稿（1 / 2  
9 , 12 : 00）

今日が祝日だと完全に忘れていました（＾|＾；）

なので「Xanadu」を書く気まんまんだっただです。

つるめぐさんの教えていただいて気づき、予約更新日を全部前にズ  
ラしました。

そこで気づいたんですが、今年は元旦が日曜日だったので2日は祝  
日だったんですね。

普通に「Xanadu」を更新させたましたね。

「恋魔」の更新が一回遅れてしまった形になります。

申し訳ございませんでしたm(\_\_\_\_\_)m

普段ケータイのスケジュールでカレンダーを確認しているものから、こういう祝日って気づかないんですね。

これから注意します。

さてボカロ曲紹介は、ハチさん特集になりかけていますw

今日の曲もハチさんの曲です。

死にたい程の恋。

相手を殺したいほどの愛情。

そういった狂気じみた恋心が、独特の世界観とイラストで語られています。

ハチさんはご自身でも絵を描かれるんですが、味のあるタッチです。

すごい才能のある方なんだなあって思います。

ただこの曲はイラストがかなりエグいので、苦手な方は引かれるかもしれません。

歌詞もかなりエグいんですが( ^ \_ ^ ; )

大丈夫な方はどうぞ

そうじさん主催の企画「イヴに世界とキミと」のガチ感想を、現在書かせていただいています。

これは参加者しか閲覧できない掲示板で行っている所以他の方は見ることはできないのですが、非常に勉強になっています^^

昨日ようやく二作品のガチ感想を書かせていただいたところなんです、その中で読点についていろいろ考えました。

自分で指摘しておいて何なんです、読点の打ち方って難しいです。文法的には「読みやすくするため」「文法的に混乱しないように、意味をはっきりさせるため」とはなっています。

しかしこれは感覚的な部分が多く、はっきりとした決まりはありません。

なので僕なりの読点の打ち方を考察してみたいと思います。

これはあくまでも“僕の”やり方なので、絶対に正しいということではありません。

「こういつやり方もあるのか、でも自分は自分のやり方でやる」でいいと思います。

こうして活報で書くと「お前らに読点の打ち方を教えてやるぜい」的に悪意の解釈をされる恐れがあるのですが、自分の研究のためです。興味ない方はブラウザバックをお願いします。

僕は読点を打つ時、上記したように「読みやすくする」「意味を整理する」という目的で打ちます。

でも正直なところ、読点を打たなくてもいい文こそ良文というポリシーがあります。

なので、打つ必要がない場合は極力読点は打ちません。

しかし長文になったり、どうしてもいくつかの内容を一文で表現したい時があります。

そういう時には読点を打ちます。

ただし【一文に読点は一つだけ】を原則にしています。

もしどうしても二つ以上にならざるを得ない場合、その文は二文以上に分けます。

それでも不都合は生じます。

例を挙げます。

? 「うわ! おい! やめろよ!」

? 「うわ! おい、やめろよ!」

? 「うわ、おいやめろよ!」

? は読点がなく、文が三つ。

? は読点が一つで文は二つ。

? は一文で読点は一つです。

どれが正しいとは文法的には言えません。

どれも正しい。

後は好みの問題になるでしょう。

ちなみに、僕はこういう場合はだいたい?で書きます。

他は「! (エクスクラメーションマーク)」が複数あり、文としては美しくないと思うからです。

記号は本来、日本語にはないもの。

ラノベを読み慣れた方はおそらく、?か?が読みやすいと感じることでしょう。



しかし「！」に限らず、記号も一文に一つで十分意味は通じる。

あとは書き方の問題です。

記号を多用すると、文は非常に安っぽく稚拙に感じてしまいます。

僕は、ですよ（^ー^；）

？は「おい」という呼びかけと「やめろよ」がくっついてしまつてわかりにくい気がします、読めばほとんど全員の読者は意味がわかると思います。

「おい」と「やめろよ」を分けて書かれている文を多く目にしているため、分けるのが『普通』って感じてしまうんですね。

大事なのは意味が通じるか通じないかなのに。

文脈にもよりますが、まさか「おいや」と「めろよ」で分けて読む読者はいないでしょうw

「お」と「いやめろよ」もそうですw

分けた方がもちろんわかりやすいですが、記号の多用を回避する方を僕は選択します。

話がズレてきたので、読点の話に戻します。

「うわ、おい、やめろよ！」

これは読点を多用したパターンです。

こういう使い方を多く見かけるんですね。

「うわ」は品詞でいうと感動詞にあたり、基本的には読点や記号で独立しないと読みづらくなる。

でも記号は多用したくない。

そうなるも僕の場合、必然的に？になるわけですね。

もしどうしても不格好な文と思えてしまうならば、文全体を変えま  
す。

それが「推敲」でしょうからね。

理想は読点なし。

入れても一つだけ。

不必要に読点を多く入れてしまうと、読むリズムが崩れてしまう。

それはせっかくのよいお話の質を、下げてしまうことにつながる。

文章表現力や書く技術は、公募などにおいてさほど重要視されない  
と言います。

確かにそうでしょう。

しかしこういった技術的な「読みやすさ」「わかりやすさ」を追求

するのは、作品全体の“質”を高めることにつながるような気がします。

まったく同じ文章が二つあったとして、読点の打ち方がおかしい方はどうしても「読みづらい」と感じられてしまうでしょう。

それは結果的に“質”につながるんじゃないかなあって思います。

ここまで記事を読まれた方はお気づきになられたでしょうか。

ここまでの文はすべて「読点なし」か「一つ」です。

読みづらかったでしょうか？

今後もしいろいろ研究していきたいと思います^^

## 7、読書日記？、「地下鉄エトセトラ 第？集」河 美子：著

タイトル 読書日記「地下鉄エトセトラ 第？集」河 美子：著

【追記】あり

日付 2012年 01月 10日 (火) 20時 00分 28秒

### 【活動報告】

Xanadu 第四章 第五節 2,368字更新

小説概論／活報録2012／【読書日記】更新

なろう作家さんで、僕の相互ユーザさんでもある河 美子さんの作品です。

これは「南の風社」という河さんの地元、高知の出版社から発行されたものです。

昨年の年末に河さんの活報で教えていただき、出版社から直接購入して手に入れました。

高知県内の書店にしか置かれていないそうなので、手に入れたいは通販形式で南の風社さんから直接購入するしかなさそうです。

この作品は昨年、なろうで連載していた短編集です。

地下鉄にまつわる様々なお話を綴ったものです。

恐い話あり感動できる話ありで、一話ごとに心が大きく揺さぶられます。

ちよつとエツチな話や社会を風刺した作品もあり、面白くてページを繰る手が止まりません。

「第？集」には17編の掌編が収められてあり、どれもすばらしい作品です。

なろうで連載が開始されてからずっと拝読していたのですが、毎回更新を心待ちにしていました。

人生経験豊かで人間観察力に優れた河さんならではの、深く考えさせられる人間ドラマがたつぷりと集録されています。

話ごとの主人公の性別・年齢・立場や境遇も様々。

それぞれの価値観があって生活があって、人生がある

そんなたくさんの人たちの人生が、地下鉄を通して交錯します。

そこには無限のドラマがあるんですね。

小さくて薄い文庫本なので持ち運びは便利だし、通勤・通学などのちょっとした時間に読めます。

しかも短編集なので、続きが気になってストレスが溜まることもな

い。

どれも1〜2分で読めます。

星 新一さんのショート・ショートのような形式です。

柔らかな文体で表現される心情は、読者の年齢は問いません。

文学的に見ても秀逸な短編集だと思います。

これ、もつと分厚いハードカバーで読みたいです。

ここまでベタ褒めだと、僕は河さんの広報担当みたいですわ

でも、何にももらってないですよw

とにかくこの作品は、十分お金を出して買う価値はあると思います。

なるうの小説仲間だというひいき目を抜きにして、いち読者として  
オススメします。

一冊500円という手軽な値段ですので、ぜひ読んでいただきたい  
なと思います。

直接購入される方は コチラからどうぞ^^

南の風社HP

振り込みなどが面倒な方は着払いにもできますが、その場合手数料  
が発生しますのでご注意ください。

ちなみに僕は、「第?集」と「第?集」をまとめて購入させていた  
だきました^^

着払いでww

装丁も素敵ですので、ぜひ一度リンク先をご覧ください。

河さん、これからもがんばってくださいね^^

### 【追記】

河 美子さんはすでになろうを退会されているようです。  
詳しい事情はわかりませんが、とても残念なことです。  
それでも僕は応援し続けたいと思います。

## 8、『地下鉄エトセトラ 第?集』河 美子：著

タイトル 読書日記「地下鉄エトセトラ 第?集」河 美子：著  
日付 2012年 01月 11日 (水) 19時 17分 0  
4秒

### 【活動報告】

Xanadu 第四章 第五節 2、543字更新

小説概論／活報録2012／【自己流】読点の打ち方】更新

河さん退会の衝撃が残っている状態で読んだら、涙が止まらなくな  
ってしまいました。

「第?集」も17編の掌編が収められています。

「第?集」は全体的にリアリティ溢れるお話が多かったのですが、  
「第?集」は河さんの“人の生き方”に対するメッセーj性の強い  
お話が多かったように思います。

後半は特に泣かせるお話が多く、これでもかと胸に迫ってきます。

「人間そついい人ばかりじゃない」という批判も考えられますが、  
僕はそうじゃないと思います。

「人とはこうありたい」「こうあらねばならない」という、河さん  
からのメッセーjのような気がしました。



「妻の名前は栄子です」というお話が中間くらいにあります。

これは若年性アルツハイマーにかかったサラリーマンを主人公にしたお話なのですが、迫り来る忘却の恐怖に怯える姿が真に迫ります。

彼を思いやる妻と親友の愛情が目には沁みます（Ｔ―Ｔ）

ラストの一文が衝撃的です。

「明日、妻の名が言えるだろうか」

このお話から以降、怒濤の感動話ラッシュです。

一作一作、涙が溢れて止まりません。

素直になれなかった父親への想いを、娘視点で切なく表現した「消せないメール」。

退職後学生時代の思いを捨てきれず、家族の反対を押し切って憧れの喫茶店を開いた男の話「私はマスターです」。

学級崩壊してしまったために心を病んでしまった元教員が、その原因となった児童へ思いを馳せる「元気ですか？」。

夫を病気で亡くし幼い子どもと上京してきた母親の辛い思いと、その母親へ温かい目を向ける乗客たちの心の触れ合いを綴る「カエルよ、高く跳べ！」。

そして最後の「優先席に座るのよ！」です。

足に病気を持ち、切断手術の前に姉に会いに来た妹。

横浜を姉妹仲良く散策した後、姉は妹に隠していた足の病気を告白される。

何もしてあげられない自分を責め、地下鉄の中で泣き出してしまふ姉。

でも妹は涙も見せず、「私今度からは遠慮しないであの席に座るの」と言います。

地下鉄の優先席では若者がケータイでメールを打ち、サラリーマンが足を広げて寝ています。

姉は心に固く誓います。

明日は地下鉄の優先席に妹をちゃんと座らせようと。

この作品に出て来る登場人物たちは、みな過去があったり心に何か重いものを抱えている人が多い。

しかし実は、同じ地下鉄に乗っているすべての人がそれぞれの人生を生きている。

それぞれの夢を抱き、それぞれの人生に思い悩んでいる。

そしてそれぞれに愛し、愛されている。

とことんまで人間を愛し、人生を大切に考えてらっしゃる河さんのお人柄がここに表れているような気がします。

今後「第？集」以降が出版されるかどうかはわかりませんが、きっと小説は書き続けていらっしやると思っています。

いつかまた、河さんの小説を読みたいです。

この二冊は売ったりせず、宝物としてずっと側に置いておきます

掌編が苦手な方にとっては、お手本のような良短編集です。

昨日も書きましたが、知り合いだからというひいき目抜きにしてオススメできる作品です。

河さん、素敵な作品をありがとうございました。

またいつか、お話ししたいです^^

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1061ba/>

---

小説概論～活報録2012～

2012年1月12日20時52分発行